

質疑応答の概要 **【更新版】**

～ 海老川水門整備に関する説明会（令和7年3月1日開催） ～

【海老川水門の構造に関すること】

Q：海老川水門の断面図を見ると、間詰めコンクリートの下端が A. P. -4.0m となっており、将来的に間詰めコンクリートを撤去する予定とのことですが、海老川の河床も将来的には、A. P. -4.0m で整備する予定なのでしょうか。（説明資料 P9）

A（国）：現在進められている海老川の整備計画では、河床を A. P. -2.5m まで掘削する計画であると千葉県より伺っておりますが、将来的な計画として、河床高を A. P. -4.0m まで掘り下げる計画もあるとのことから、それに対応できるような構造で先に整備しておくものです。

Q：仮設栈橋の高さは、現在の海老川第二水門と同程度の高さということで良いでしょうか。底引き船は、その高さがないと水門を通過することができません。

A（国）：現在の海老川第二水門と同程度の高さで計画しています。

Q：現在の漁船は、水門が完成した昭和42年頃に比べて大型化しており、水門の内側に入る際は潮待ちをしている状況です。緊急時の対応も考慮して、常に水門の内側に入れるよう、新水門の下端の高さを現在の水門より高くしていただけないでしょうか。

A（国）：新しい水門は、現在の2つの水門のうち下端が高い海老川第二水門と同じ高さで設計しています。水門の下端を見直すことは、設計条件をとりまとめている千葉県にも関係してくることから、改めて千葉県も含めて検討し、その結果を船橋市漁業協同組合へ報告します。

➡新水門の管理用通路下端高さを海老川第二水門より 1m 程度高くする旨を船橋市漁業協同組合へ報告しました。

Q：仮設栈橋による船からの見通しを確認するために、仮設栈橋の杭の配置が分かる断面図も示していただけませんか。

A（国）：仮設栈橋の断面図については、後日、船橋市漁業協同組合へ提示します。

→仮設栈橋の断面図を船橋市漁協組合に提示しました。また、その際に生じた杭配置の再検討要望を受けて、改良案を作成し、船橋市漁業協同組合に内容を報告しました。

【海老川水門の工事に関すること】

Q：仮設管理用通路は、水門の維持管理の為の通路とのことですが、現状、浜町と湊町を繋ぐ生活通路として、また中学生の通学路として海老川水門の管理用通路を通行している状況です。工事中においても、これまでと同様に仮設管理用通路を一般の人は通行できるのでしょうか。そして、通行時の安全面についてどのように考えているのでしょうか。また、万が一、通行止めの期間が発生する場合は、中学校やPTA等への事前説明をお願いします。（説明資料 P13）

A（県）：現在の海老川水門管理用通路は、浜町と湊町を結ぶ重要な通路となっていることは、承知しています。現在、国土交通省及び船橋市と工事中も一般通行できるよう、通行時の安全面も含めて調整を図っているところです。

Q：施工ステップ1に関して、工事に伴い設置する仮締切は、工事中でも高潮等の水圧に耐えうる構造でしょうか。（説明資料 P12）

A（国）：工事で設置する仮締切は、高潮等の水圧にも耐えられるよう設計しています。

Q：説明資料に記載している「A.P.+」とはどういうものですか。

A（国）：「A.P.」とは、荒川改修工事で使用された基準面からの高さを表しており、海拔（本地域では東京湾の平均海面）の高さに1.134mを加えた高さが「A.P.」による高さの表示となっています。また、荒川改修工事の基準面より高い場所は、「+」を付けて表示しています。

Q：施工ステップ3に関して、船舶の通行が海老川第一水門のみとなっていますが、海老川第一水門は低く通行できない船舶があるので、新水門を通行することは出来ないでしょうか。（説明資料 P12）

A（国）：施工ステップ3の段階では、新水門の通行はできないと考えていますが、改めて新水門の通行について検討し、船橋市漁業協同組合へ報告します。

→施工ステップ3の段階で新水門を通過出来るように再検討した旨を、船橋市漁業協同組合へ報告しました。

Q：海老川水門の工事期間中においても、港内の浚渫はこれまで通り行うのでしょうか。また、海老川水門の工事により海老川の河道掘削がストップしないよう、海老川の河道掘削をどのように行っていくのか教えてください。

A（県）：港湾で管理している範囲の維持浚渫については、これまで通り定期的に行います。海老川の河道掘削については、船橋橋から上流は令和16年度までに完了予定、また、海老川水門までの下流部分についても行っていくと河川部局より聞いています。海老川水門の工事により、海老川の河道掘削がストップしないよう河川部局と協力しながら対応していきます。

【海老川水門の操作に関すること】

Q：新しい水門の運用では、潮位がどのくらいで開閉するのでしょうか。

A7（県）：新しい水門の運用は、現在と同じ運用となります。

Q：現在の水門の開閉は人が操作していると思いますが、新しい水門の開閉のシステムは、どのように変わるのでしょうか。また、天気、風、台風等の各種情報やAIを活用した運用は行われるのでしょうか。

A（県）：現在は、船橋排水機場に人が常駐し操作をしています。今後については、どのような対応で水門を動かすのか、検討しているところです。

【船橋排水機場の整備に関すること】

Q：現在、海老川水門を閉めた際は、船橋排水機場及び海老川排水機場のポンプで排水し海老川が溢れないよう対応していますが、現在の合計ポンプ能力 58m³/s について、船橋排水機場の改修後は、どれくらい排水能力が増強されるのでしょうか。

A（県）：今現在、河川整備計画に対応した排水能力を有しており、船橋排水機場改修後の合計ポンプ能力は約 90m³/s になるよう検討しています。

Q：船橋排水機場のポンプは老朽化していますが、作動しない等の危険は無いのでしょうか。

A（県）：適正に維持管理し運転に支障が無いよう取り組んでいます。

【千葉県整備区間に関すること】

Q：国で行う事業区間外の千葉県整備区間（オレンジ線）の整備状況及び整備計画について教えてください。（説明資料 P2）

A（県）：直轄事業区間の西側（西浦、栄町側）については、現行計画の天端高への嵩上げは完了しており、現在、耐震対策工事を進めています。また、現在、気候変動を踏まえ、直轄事業区間の西側・東側（ららぽーと側）の整備をどのように進めていくか検討しているところです。

Q：親水公園には、東日本大震災により壊れて歩くのも危険な箇所が残っています。今後想定されている大きな地震に備えた親水公園の補強等を行っているのでしょうか。また、地震による津波に備えて、親水公園を今より高くしていただきたいです。

A（県）：親水公園の遊歩道等において、一部損傷や陥没により通行を制限しているところがあります。軽微な維持補修については、親水公園の管理会社によって日常管理の中で補修を行っており、陥没箇所については、別途工事で今年度中に一部復旧する予定です。また、東日本大震災のような大きな地震が発生した際には、破損等の発生は避けられないことから、そのような破損等については、早急に復旧できるよう対応してきたいと考えています。

【説明会に関すること】

Q：船橋排水機場は、令和11年～令和15年の期間での改良予定とのことですが、これに関する具体的な説明はいつ頃行う予定でしょうか。

A（国）：現在、船橋排水機場の設計を進めているところで、設計がまとまりましたら、説明の場を設けたいと考えています。

Q：本日の説明会における質疑に関して、船橋市漁業協同組合への報告も含めて、ホームページ等に掲載するのでしょうか。

A（国）：皆様へ報告できるよう千葉県及び船橋市と検討させていただきます。

~~（当日の質疑において、船橋市漁業協同組合へ報告と回答しているものについては、報告が済み次第、後日ホームページを更新する予定です。）~~